

38. 《自然災害でトドメを刺された元禄文化》

歴史に残る文化は、生活が充実したときに誕生しています。五代将軍徳川綱吉（注1）のとき、元禄文化が開花。綱吉は、評判の悪い「生類憐みの令」を出した将軍ですが、文治政策を推し進めた将軍です。

元禄文化は、京都・大阪を中心に多くの文化人が輩出し、芸術や文学を残しています。それはさておき、江戸においても、俳諧の松尾芭蕉（注2）、歌舞伎の市川団十郎（注3）が輩出しているほか、学問の殿堂である湯島の聖堂が完成しています。

しかし、赤穂浪士の討ち入り事件が起こって1年も経たないうちに、大地を揺るがす元禄地震が発生します。関東大震災に匹敵する地震でした。

そして、縁起を担いで「宝永」と改元しますが、今度は大雨で、8月に江戸川が決壊し、東京下町（葛西、亀戸、本所、深川など）が水没します。

さらに、3年後には、東海・東南海・南海地震の3連発地震である宝永地震が発生し、その47日後に富士山が噴火します。

自然災害の多発は、国や民の力を削ぎ、文化を楽しむどころではありません。こうして、元禄文化は終わったと言えるでしょう。

注1：徳川綱吉（生没年：1646～1709年）は、元号でいえば延宝8（1680）年に就任し、その後の天和の3年間、貞享4年間、元禄の16年間を経て、宝永6（1709）年に死去します。将軍在位は、29年間に及びます。

注2：松尾芭蕉（生没年：1644－1694年）は、江戸の神田水道改良工事に携わったあと、奥の細道の旅に出ており、神田川沿いに彼の足跡が残っています。

注3：市川団十郎（初代の生没年：1660－1704年）は江戸歌舞伎の創始者であり、京大阪歌舞伎の始祖の一人、坂田藤十郎（初代の生没年：1647－1709年）と並び称される。

参考：主要年表

- 1687年（貞享4） 「生類憐みの令」を發布
- 1689年（元禄2） 松尾芭蕉 奥の細道の旅に出る
- 1691年（元禄4） 湯島の聖堂が完成
- 1701年 9月18～21日（元禄14） 東海・東日本が大風水害に襲われ、翌年元

禄の飢饉が発生

- 1703年 1月30日（元禄15） 赤穂浪士の討ち入り事件が発生
- 1703年12月31日（元禄16） 元禄地震 元号を宝永に改元
- 1704年 8月3～4日（宝永 元）江戸川決壊により、東京下町が床上2mの浸水
- 1704年10月13日（宝永 元） 大和川付け替え
- 1705年 7月 6日（宝永 2） 淀屋闕所（けっしょ）事件＝淀屋の財産没収
- 1707年10月28日（宝永 4） 宝永地震、富士山噴火

写真は、①元禄見得（みえ）を切る市川団十郎（文化デジタルライブラリーHP より）、②関口芭蕉庵（奥の細道に旅立つ前、神田上水改良工事に関わった頃に住んだ住居、細見撮影）、③湯島の聖堂（細見撮影）

①



②



③

